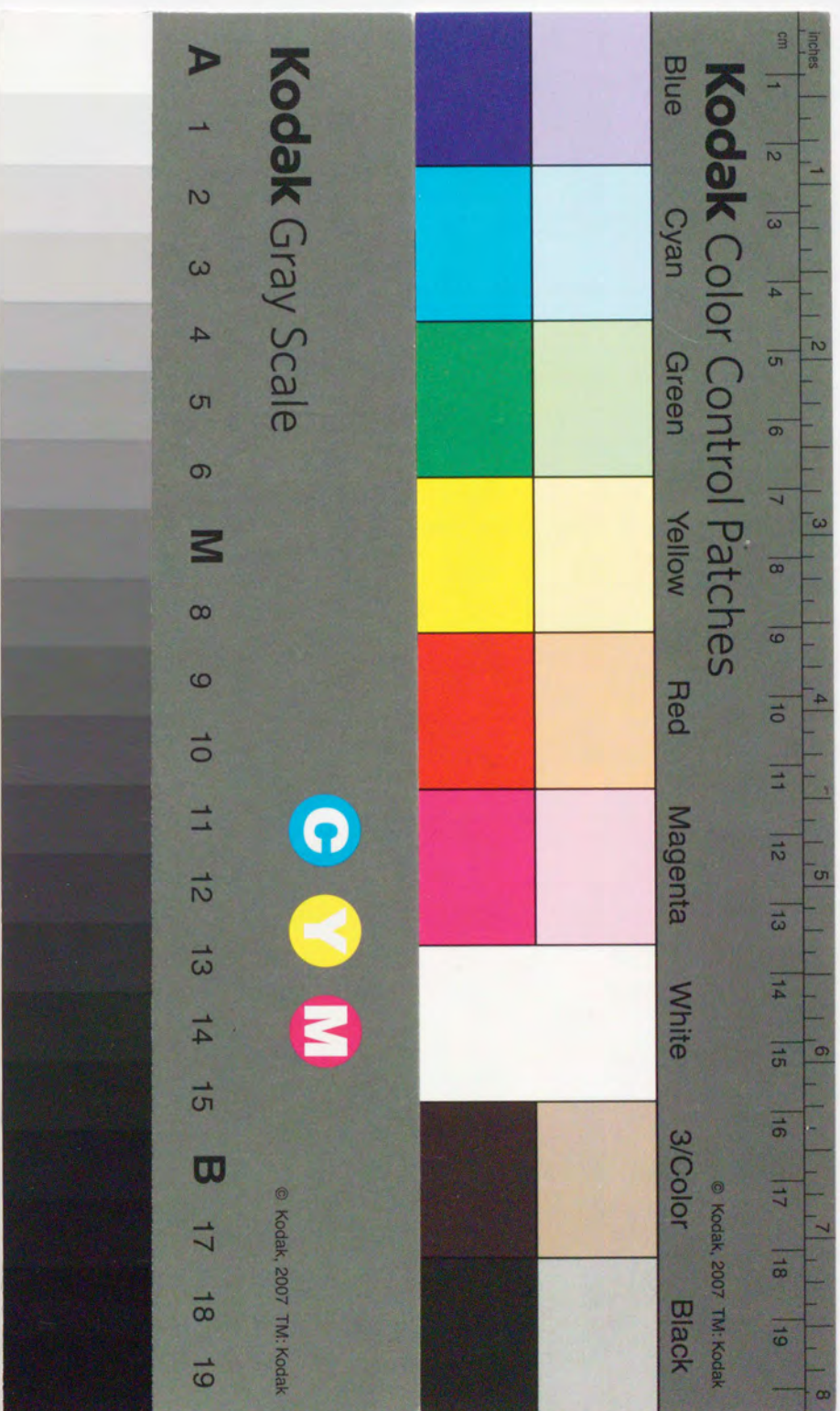






大字
繪抄



孝の始

孔子孝道と尊
と云ふ人々教へ
出成る所て孝
後とある人々
云ふ小礼儀
父母を受け
と云ふ人々
の始なり
我々の世
親の世も
身より
父母に
父母の
大切





漢文帝

仁孝臨天下 魏冠百王

漢廷事賢母 湯亦必親嘗

文帝ハ漢の高祖の太子を母ハ高太后とヤリ
 孝に孝れ徳を尊ひて天子の尊厳を明として
 湯亦食物を口とスルこと一して後を
 帝の母を尊とスルこと一して後を

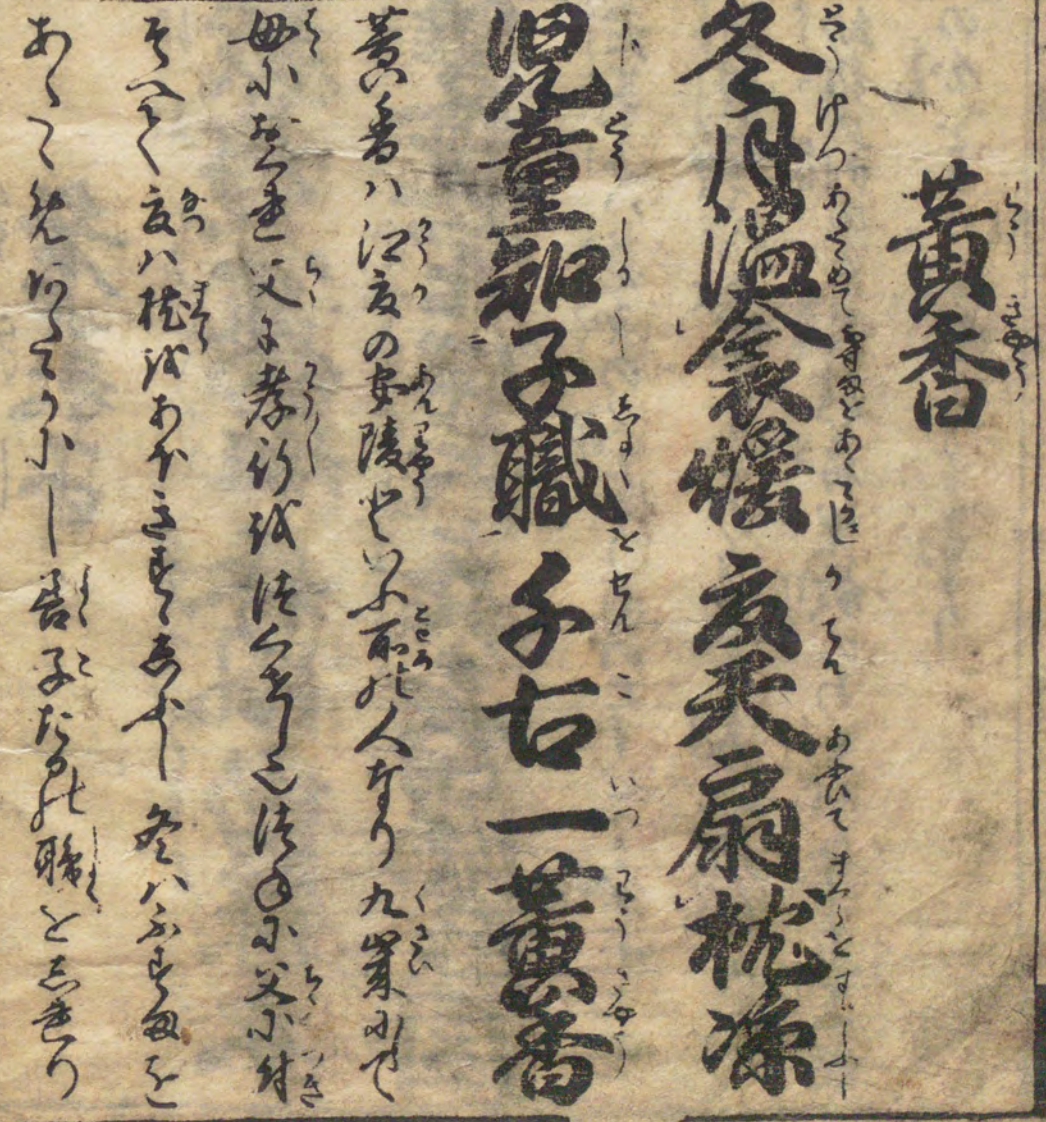


老萊子

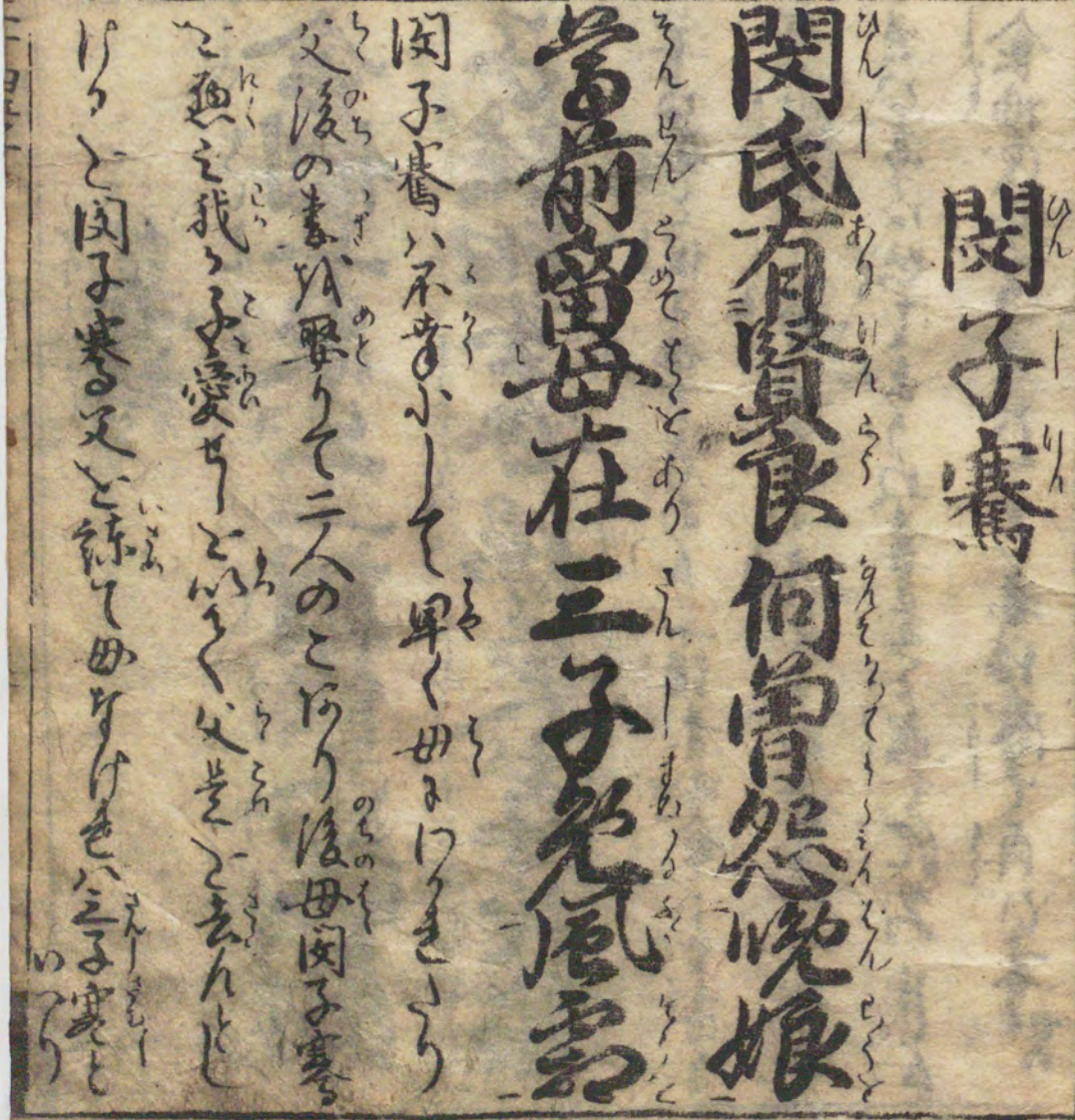
戲弄婦姑 春風動綠衣

雙親在 笑色滿庭園

老萊子ハ楚國の人なり其の七十余にして
 父母を侍ふに余小なりありたり常小孝のふして
 知推の時衣を著て見戲のめをバニして父母
 の心を和らさるるを以てする



冬月 漢 衾 煖 矣 天 扇 枕 涼
兒童 知 子 職 子 古 一 黃 香

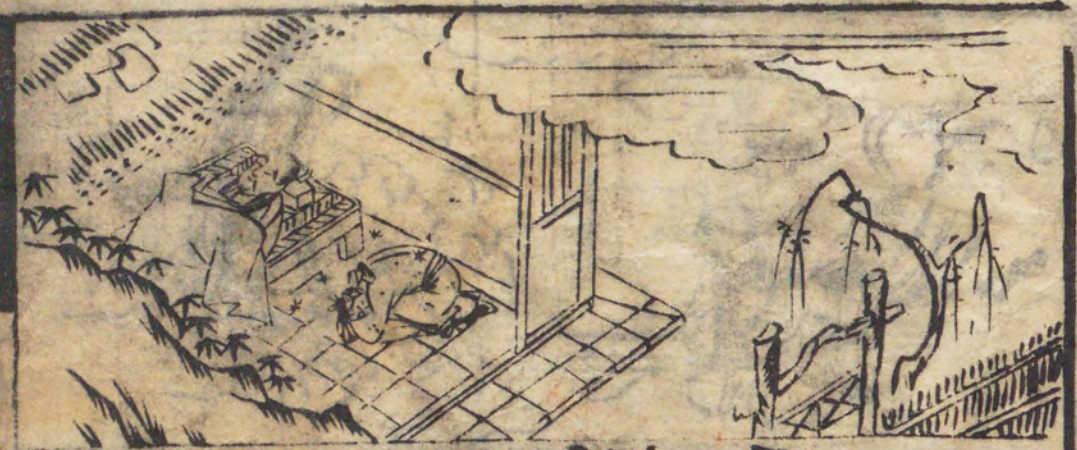


関氏有賢良何曾怨晩娘
當前留母在三子免風霜



姜詩

舍側其泉出一朝雙鯉魚
 子姑知事母婦更孝於姑
 姜詩妻と俱し母を孝あり一朝妻が命しとてさき
 不の目泉と汲ふくふ大風ふあそくうきけ
 きい妻の母てきうの妻是とてさきめりし
 食ゆ成らうてはと姜詩感て再び妻を



吳猛

夏夜無帷帳蚊蚋不敢揮
 恣渠膏血飽免使入親圍
 吳猛ハ暑より孝行とあそり家裏し
 蚊ハ蚊帳もなれぬを身
 親と蚊と蚊のかうしにありて動か
 蚊として親の身ふりてしんたり

全七十八



董永

發父貸方兄天姥酒上迎
織作擅情主孝威盡磐
董永孝行居りりけふ又死してさかひ
も金と財用かこふなりてさかひいり
て人傳うてまのとり物と織著れり
とりのりてふはくのひりりや

全七十八



唐夫人

孝敬聖家姑乳姑晨盥梳
世恩無以報願得子孫如
崔南といふ人の妻なりまうとめを
食いハよかたけ夫人給々ち成るる
まゐりやうとまりまゐりやうとまり
の姑いのちやうけきハまゐり



揚香

深山逢白額努力搏腥風
 父子仇毒氣抗身飢口中
 幸十死而得父之遺命山中入虎
 穴虎食之曰子揚香父之仇也
 として食之曰子揚香父之仇也
 として食之曰子揚香父之仇也



孟宗

泪滴朝風寒蕭々竹數竿
 須臾春筆出天意報年安
 母年老し食のあはれいさけきハ別あゝ
 母の心もさういふてはねえ筆はひかれ
 天も春の筆はひかれ



郭巨

貧乏恩仇給埋児預母存
 黄金天所賜光輝照寒門
 郭巨と愛して己の食糧と分してをり郭巨
 まうに此外に食糧なり母の食糧なり
 郭巨と愛して己の食糧と分してをり郭巨
 黄金乃一金也



朱壽昌

七歳生離母冬高六十年
 一朝相見面春字動心
 朱壽昌六十年が母と別れたが六十年後に
 官派をよそへて母と別れたが六十年後に
 官派をよそへて母と別れたが六十年後に



曾冬

母指終方啗児公痛不禁
 負新油来晚骨肉至性凉
 乃冬山よりと採て病ありふにうたひひひ
 たりとゆりたればその母を冬かゝるとゆひひ
 指とゆりゆりといひ母子骨肉のふたふた
 通いとゆひひとゆひひとゆひひとゆひひ



王祥

继母人間有王祥と下無
 至今河水上一片冰水摸
 继母にあらせられけき大孝のこころにみえの目
 生魚とのもろもろに氷のうみかき氷と解
 してゆりゆりといひゆりゆりといひ
 下にゆりゆりといひゆりゆりといひ

蔡順



黒根奉親園啼飢泪滿衣
赤眉知孝順牛米炊香飯
素の突とどろいて母を孝とぞ一けり
恥てあひすいとも人とすむふあひ素順。今
あふうりーに素の突とどろい母を孝とぞ一
と感して即ち牛米の食飽とぞ一すけり

吏黔婁



到縣來自日棲庭遭慘涼
頑如代死小製碑墓志
府城縣中いふ所の名をかりて留るる。小製
むかふて代死なるを家へ入る。是を果して父
大痛して命あやうのりたり。黔婁あやう。こ
たす身なり。いづくのうらんと小製碑墓志。いのり



山谷

生顯圓下 平生孝親
 汲泉消渴 番婢寄書
 看病 せんが
 せんが



五
庫

慈母怕雷水魂宿夜屋
何香时一震到夢迷子廻



丁蘭

刻木為慈母形容在日身

害之張子姪史早孝之親

母のまゝと木像よりて給はしけりて
 そのまゝに木像の面をこぐけきば瘡のごとく
 ありてうしろをぬげりて一日とて丁蘭がま
 みの髪をぬげりてうしろをぬげりて



張孝張禮

偶佳嫁林兎代妻云瘦絶

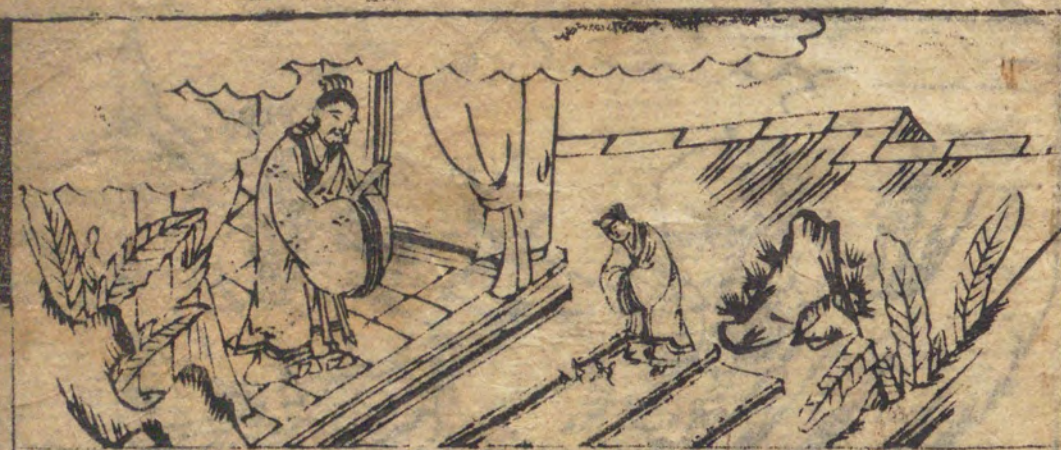
告乃口事張氏古今秘

張孝張礼ハ兄弟ナリハナニカモナリ
 木の實をむくひる山に入つて盗人あり
 意て食んと欲せし由は金とありてんあやう
 家より一町又ありて妻を盗んて盗人あり



田真田廣田慶

満底雲珊瑚群芳終不
 春風死滿樹兄弟復同
 兄弟二人有り父死しその後財室と云
 いけくそり又春の樹云来ぬありけり
 三つよりもてとんとつよき夜は月夜
 之人ぞうきもそり同好し
 けり



陸績

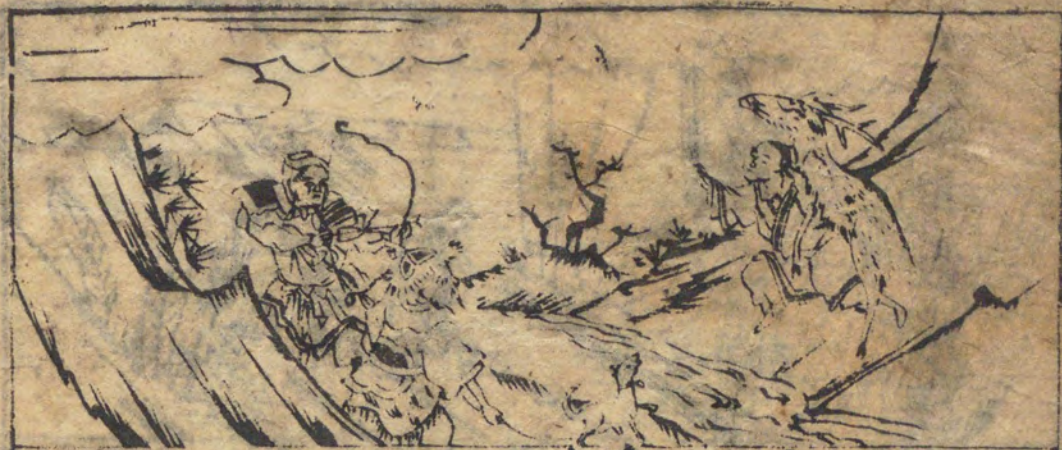
孝悌皆て性人間六歳児
 袖中懐橘橘遺母報含飽
 孝悌と云ふの更にもて果に橘を
 袖中に入れてゆりて母に
 母あつてんあつてん
 母あつてんあつてん

判子

光親恩麻乳身掛褐毛衣

若不言考信山中著紫襦

親あ服あきぬ麻の乳と赤いけまの
判子指毛の衣と赤いけまのあなこの麻う
の中へまゐり入て乳と赤いけまに持人まゐり射
やうにわたりまゐりにわたりて余まゐり



ませう有る所二十四孝細字

判子讀み便なり今茲に

判子點正し大子子正して物

讀み難く雅の一冊ともしつと

庶幾のく

安永三年正月

仙臺書房

國分十九軒

池田屋源藏板
本屋治吉

